



住民からの声



さくら市在住
石塚昇男さん

「蚕は餌を食べたら絹を出す」

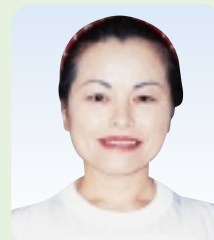
私はごみ問題を考える度、いつもこの文を思い出します。

現代の豊かさとは消費し続けることで成り立つとしたら、大量のごみを排出することが最終の形なのではないでしょうか？

今こそ私たちは、「蚕的発想」でごみとして扱う量を減らし、そのごみを再活用することで、美しく、地球に優しい環境を作ることに真剣に取り組むべきではないでしょうか？

それが未来に向けての責任であり、本当の豊かさだと思います。

私は土着菌(竹やぶ菌)を使った堆肥を作り、野菜畑に利用しています。この菌は、家庭から出る生ごみ等も発酵させて有機肥料として利用できるため、学校給食用の玉ネギ栽培に活用しています。また、いつでも竹やぶの中から採取できるため、他の発酵菌に比べてお金もかからず簡単に環境にやさしい堆肥を作ることができます。これからも安全・安心な作物を作り、更に生ごみの減量化を図り、「地産地消」に心がけていきたいと思っています。



塩谷町在住
渡辺和美さん

事業所において、更なるごみの分別推進を

『ごみの資源化・減量化を図るため搬入検査を実施し、
ごみの分別・リサイクルの推進を行っています。』

塩谷広域環境衛生センターでは、構成市町の衛生担当者を中心として、事業所から排出される事業系「可燃ごみ」を対象に、搬入時に内容物の検査をしています。

可燃ごみの中には、資源物となる紙類（主に雑紙）・ペットボトルが多数見受けられ、不燃物（缶・ビン等）の混入も確認されております。

事業所で排出される「ごみ」は徹底して分別を行い、リサイクルを推進されるようお願いいたします。可燃ごみの中から資源物として抜くことができれば、ごみの減量化につながります。

※事業系ごみの搬入検査については、今後も実施し、指導してまいります。



「ニュースレター」及び「ごみ処理行政」に対するご意見・ご提案をお気軽にお寄せください。
また、塩谷広域行政組合施設整備室のホームページも開設しております。

※ホームページアドレス <http://www.shioyakouiki.or.jp/>

問い合わせ先

〒329-1572 栃木県矢板市安沢3622番地1

塩谷広域行政組合 施設整備室 磯・小堀・印南・片野・斎藤
TEL0287-48-2760 FAX0287-48-0463



この印刷物は「環境にやさしく」をモットーに「古紙配合率100%再生紙」「大豆油インク」を使用しております。